

# 令和6年度学校評価 最終報告（今年度の取組と次年度に向けて）

## 重点目標

### 授業づくり

- ・よりよい教育課程の編成に向け、教員全体で話し合い、学び合う。
- ・障害特性の理解を深め、卒業後の「いきジョイの実現」を見据えた小学部・中学部・高等部とつながりのある指導・支援を行う。
- ・一人一人が各教科等のねらいを踏まえた授業づくりを行う。

### 安全で安心できる 環境づくり

- ・お互いの人権を尊重し合える環境づくりを進める。
- ・災害等に備える視点と突発的な事態に対応する視点で一人一人が危機管理意識をもち、組織的な対応力を高める。
- ・積極的な情報発信・情報共有を進め、保護者、関係機関、地域との連携を深める。

### 働き方の改善

- ・職員一人一人の生活や働き方を認め、お互いに理解し支え合う職場づくりを進める。
- ・児童生徒及び職員の「いきジョイの実現」に向けて、児童生徒への指導・支援に時間かけるための働き方の改善を学校全体で取り組む。

## 各部の取組

項目	具体的方策	今年度の取組と次年度に向けて
Ⅰ 授業づくり	<小学部> 児童の行動を理解するための枠組を教員間で共有し、児童の望ましい行動を増やしていくための指導・支援方法についてチームで考え、実践する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・部会で児童の行動とその機能を理解するための枠組（ABC分析と行動の機能分析）を発信し、共有した。保護者にも研修会を通じて発信することができた。今後は、共有だけでなく、浸透を図り、活用につなげていきたい。</li><li>・ケース数は少ないが、強度行動障害が見られる児童について、ABC分析等を活用して、指導・支援を検討する学年等が見られた。</li><li>・部の児童について情報共有する場を新たに2回設定した。部の職員全員で確認する機会となった。今後も継続していく。</li></ul>
	<中学部> 学習指導要領を踏まえた指導計画、授業計画を作成し、実践を通して中学部の教育課程や日課の見直しを行う。	<ul style="list-style-type: none"><li>・さわやか学級の合わせた指導の年間指導計画モデル案を作成した。次年度実践・検証を行う。また、各学年グループで今年度の実践の反省と日課表の見直し、中学部としての指導の押さえなどを検討している。年度内に整え、部として共通理解を図って指導ができるようにしていく。それを踏まえて教育課程、日課表の見直しを次年度も継続して検討していく。</li><li>・生徒にとって分かりやすい学習環境をテーマにした各グループの実践報告を行った。動画や写真なども提示され職員が興味・関心をもって見聞きし、参考にすることができた。</li></ul>

<p>&lt;高等部&gt;</p> <p>令和6年度の教育課程メジャー バージョンアップに伴い、部全体 でカリキュラムマネジメントを進 める。</p> <p>「もっといい授業、もっといい学 び」のために、次なる手だて（改善 案）を明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程全般について、職員から意見を集め、集約した。成果や課題が出さ れ、それらの意見をもとに、今後学年主任者会、部会を通して、よりよい運 用や修正案について検討していく。</li> <li>・帯の活動において実践した授業の内容をまとめ情報を提供する。</li> <li>・校内において部を越えた自由な授業参観や教材・教具の展示などを通して、 具体的な指導や新たなアイデアを見付けた。</li> </ul>
<p>&lt;施設内学級&gt;</p> <p>個々の特性を理解し、活動内容の 充実を図り、個に合わせた授業を 実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し行っている学習でも、昨年よりも課題や目標の難易度を上げるなど 児童生徒の成長段階に合わせて、授業に取り組むことができた。</li> <li>・生活単元学習では、一年を通して視覚、触覚、嗅覚、聴覚などを刺激するよ うな活動を多く取り入れるようにした。児童生徒の昨年とは違う表情やこれ までの積み重ねた経験から活動に落ち着いて取り組む様子を多く見ることができ、児童生徒の成長につながったと感じた。</li> <li>・病棟との朝の打ち合わせだけでなく、発作や体調面でいつもとは違う様子が 見られたら、すぐに看護師に伝えて様子を見てももらうようにした。モニター のチェックも行き、血中酸素濃度が下がっていないか脈数が増えていないか 確認を必ず行った。児童生徒は、大きく体調を崩すことなく、元気に学校生 活を送ることができた。</li> </ul>
<p>&lt;研修部&gt;</p> <p>教員が部間のつながりを意識しな がら、児童生徒一人一人の指導や 支援について考え、実践できるよ うにサポートする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部を越えて、互いに気軽に授業を見合う機会として、「部を越えた自由な授 業参観」ができる期間を年間2回設定した。授業参観した教員は全体の2～ 3割だったが気軽に参観できてよい取組だという意見が挙がり、サンクスカ ードの記入も多くあった。今後も、参観方法の見直しや全校で授業を見合う 雰囲気づくりの工夫をしていく。</li> <li>・外部講師による研修会を実施した。研修を通して、児童生徒の「自発的・主 体的遊びの充実」についての理解を深めるとともに、楽しみ、遊びの中から の学びへと支援を考える機会となった。今後も、専門性の高い教員や外部講 師と連携して研修会を実施し、教員の専門性の向上を図っていきたい。</li> </ul>
<p>&lt;保健体育部&gt;</p> <p>児童生徒の健康課題に対し、適切 な支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健康診断および月々の体重測定をもとに肥満傾向にある児童生徒に対 し、肥満指導を行った。今年は小学部4名、中学部2名、高等部15名の児 童生徒に対し、体重測定や食事、おやつの記録、給食の食べ方指導などを行 ってきた。また、保護者の要望に応じて養護教諭、栄養教諭による保護者面 談を行い、栄養や生活相談を行うなど、家庭とも連携し肥満指導を行った。 次年度以降も児童生徒の健康課題に対し適切にアプローチできるように健 康管理と健康指導を継続していきたい。</li> </ul>
<p>&lt;自立活動部&gt;</p> <p>自立活動のねらいを踏まえた授業 づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家活用事業の相談内容を職員向けの自立活動だけで報告するよ うにした。自立活動の授業の実践を紹介するだけでなく、指導・支援する上 での大切なポイントなどを伝えることができた。自立活動だけでだけでなく、 自立活動の授業や相談の様子を撮影した動画を多くの職員にいつでも見 てもらえるように準備を進めている。</li> <li>・夏季休業中の自立活動検討会では、新たに時間における指導の取組状況を各 学年で共有するようにした。動画を撮って紹介しあったり、指導内容につ いて相談しアイデアを出しあったりと、夏季休業以降の授業づくりに生かすこ とができる。</li> </ul>

	<p>&lt;教育支援部&gt;</p> <p>児童生徒の支援において、関係機関との連携を図り、学校全体で取り組める様々な支援方法を共に考える場をつくり、実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市こども発達センターとの相談会を実施した。御助言いただいた内容について、どの職員も自分事としてとらえることができるように、ポイントを絞って Teams で共有した。</li> <li>・選択研修を 3 回実施した。豊田市強度行動障がい者支援事業を利用した講義や、応用行動分析に関する研修を行った。約 70 名の教員が参加し、熱心に学ぶ様子が見られた。</li> <li>・校内職員アンケートでは、関係機関と連携した職員全員から「重要」「心強い」「参考になる」と回答を得られた。さらに、「迷っていた支援に道筋をつけてもらえた」「支援の方向性を変えることができた」等の回答が多く、実践にも確実につなげることができたことが分かった。</li> </ul>
2 安全で安心できる環境づくり	<p>&lt;小学部&gt;</p> <p>児童が安心して笑顔で過ごし、成長できるように、主体的に行動ができる環境をつくり、成長につながる適切な言葉掛けや関わり方について考えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に発信することで、部内で児童へ温かな言葉掛けと柔らかい支援を心掛けようとする意識が高まってきた。</li> <li>・各学級や学年において、視覚支援や構造化を工夫して、児童が分かりやすい環境づくりを実践してきている。特に物理的な構造化の取組が進んできた。今後も継続していく。</li> <li>・児童の人権を尊重し成長につながる適切な言葉掛けや関わり方について、学年で話し合う機会を設けた。強めな指導になりやすい場面について考えることができた。</li> </ul>
	<p>&lt;中学部&gt;</p> <p>生徒の支援体制を整え、情報共有をしながら指導・支援にあたるとともに、学習活動や部の取組を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭支援を中心にケース会議、支援会議をその都度必要なメンバーで実施した。迅速な情報共有ができ、関係機関とも積極的に連携をとることができた。</li> <li>・計画どおり、学習活動や行事の写真をホームページにコメントとともにあげることができた。保護者からも子どもの様子が分かってよいと評価を受けており、今後も引き続き、可能な範囲で学習活動等を様々な媒体で伝えていきたい。</li> </ul>
	<p>&lt;教育情報部&gt;</p> <p>校外向けホームページで学校の取組を発信し、安心できる学校のイメージを高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の校務と連携して、必要な情報を適切なタイミングで発信することができた。</li> <li>・「学校生活」を定期的に更新することで、児童生徒の活動の様子が分かる「安心できる学校」のイメージを高めることができた。</li> </ul>
	<p>&lt;生活指導部&gt;</p> <p>緊急時の際、児童生徒職員が、どう行動すべきか基本的な動きを理解し、その時その場で判断し対応する力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、火災、不審者の各避難訓練を実施し、緊急時には、誰が、何を、どのように行うかを確認することができた。また、南海トラフ地震臨時情報発表時の対応について、全校職員で検証した。本校としての対応の在り方を考える中で、改めて災害時に必要なことや、判断の仕方、とるべき行動について確認することができた。</li> </ul>
	<p>&lt;進路指導部&gt;</p> <p>教員や保護者に向けて、進路に関する発達段階に応じた情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部 4 ~ 6 年の保護者については、「進路に関する調査」を行い、進路に関する保護者からの疑問や不安に対して個別に回答することができた。また、6 年生の進路説明会では、実際に中学部の作業学習や、生活単元学習の授業を保護者に説明を交えて見学することで、小学部卒業後の学校生活について見通しをもつことができた。今後は、児童の具体的な進路先について小学部の教員にもできるだけ情報を発信できるようにしていきたい。</li> <li>・本年度より「中学部の進路の手引き」を制作し配付した。中学部 3 年間の進路の流れと高等部の進路指導について掲載した。また中学部 2 年生の進路情報連絡会では、高等部卒業生の保護者に講演をしていただいており、今回から中 1 の保護者にも案内をして参加していただくことになった。今まで学年ごとの連絡会であったが、興味のある方には、どんどん参加していただく方向で今後も行っていきたい。</li> <li>・これまで進路の手引きの校内実習の目標は、学年を通した目標だけだったが、学年に分けて段階的に成長を促せるようにした。高等部 1 年生では、働くことの基礎的な目標、高等部 2 年生では、産業現場等における実習に向け、より実践的な目標、高等部 3 年生では、これまで身に付けた力の定着に加え、社会生活に向けて休憩と作業の気持ちの切り替えを自分でできることなどを目標に取り入れた。</li> </ul>

	<p>&lt;保健体育部&gt; 安全で安心して学校生活が送れる環境づくりを行う。</p> <p>&lt;教育支援部&gt; ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との協働体制を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>棚や掃除用ロッカーなど、教室内で転倒、落下する可能性のあるものについては、すべての耐震補強を終えることができた。教材室や倉庫などの耐震についても、順次進めている。また校内のリストアップした危険物や不要物についても、撤去作業を進めている。老朽化が進み危険箇所が増えている現状から、今後も校内巡回を定期的に行い、通路や段差などに対する安全対策や教室環境などにも目を向け、より一層安全な環境づくりを行っていく必要がある。</li> </ul>
3 働き方の改善	<p>&lt;高等部&gt; 生徒の指導・支援に時間をかけられるよう、学校の中にある業務、環境、仕組みを徹底的に改善する。</p> <p>&lt;総務部&gt; 職員室内のロッカー等の整理整頓を行い、事故等を未然に防ぐために安全対策を行っていく。</p> <p>&lt;教務部&gt; 教務関係書類マニュアルや校務支援システムの有効な活用を進め、年度当初をはじめとした業務の改善を図る。</p> <p>&lt;研修部&gt; いきジョイ（校内研究）に全校で取り組み、「質の高い学び」「持続可能な学校」を同時に実現していくための働き方を全教員で共に考え、検討していく中で教育活動に取り組む環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季研修会を2回開催した。参加者アンケートでは、どちらの研修会についても「大変よかった」「よかった」という回答のみ寄せられた。例年同様、具体的な支援方法や教材についての助言を多く求めていること、子どもの特性理解をすることで教員の気持ちに大きな変化がみられることも分かった。事例に寄り添った具体的な助言を求める声が多いため、次年度の研修の参考にしたい。</li> <li>巡回相談では、事前に相談内容を把握することで、本校での取組や支援に必要な教材等の資料を準備して訪問することができた。アンケートでは『参考になった』という声が多くあった。どの学校からも、具体的な支援方法や保護者との連携についての相談を受けることがほとんどだったため、これについても次年度の研修の参考にしたい。</li> <li>校内研究とも関連付け、各チームにおいて高等部職員が部の現状を報告したり、改善に向けての意見を出したりしながら、学校全体で話し合いを進めていった。</li> <li>高等部内において、業務などの徹底的な改善のため、今後も取り組む必要がある。</li> <li>職員室内のロッカー等の整理整頓を呼びかけ、物の位置や表示等を改善した。各校務のロッカーに入っていた必要のない物を片付けて、収納場所を増やすことができた。落下による事故防止のため、棚の上の物を整理した。</li> <li>教務関係書類マニュアルについては、Teamsにアップロードすることでどの職員にも確認してもらいやすくしたが、十分に周知できていなかったのか分かりづらいという意見が校内研究（いきジョイ）の中であった。他校務分掌と連携して、『新転任者もここを開けば業務の進め方が分かる』フォルダを作成し、誰もが円滑に業務を進めていくようにしていく。</li> <li>校務支援システムについては、業務改善につながる活用方法を念頭に話し合いを始めた。成績関係は現在の本校の形式をそのまま使用し、児童生徒名簿と指導要録（学籍の記録）での運用を決め、マニュアルの作成、運用に向けての操作講習会を行った。今年度末から次年度初めに実務を行い、より運用しやすいように業務の改善に努めていく。</li> <li>「働きやすいみよしづくり」をテーマに、教員の専門性を高めつつ子どもと向き合う時間を十分に確保するための時間づくりを検討するワークショップを実施した。</li> <li>六つの項目に分けてグループを編成し、項目ごとに課題を洗い出した。「なくせるもの、減らせるもの、簡略化できるもの、やりやすくできるもの」を改善ポイントとし、一人一人が自分事として働き方について考えることができた。また、小学部、中学部、高等部、運営委員等と連携を図り、さらなる改善策について検討することができた。</li> <li>引き続き、「働きやすいみよしづくり」については検討・改善を行っていく。</li> <li>次年度のいきジョイは、障害特性の理解をテーマに研究を進めていく。学校全体で障害の特性、支援方法等を学び、実践につなげていけるような取組を考えていきたい。</li> </ul>

	<p>&lt;教育情報部&gt; ICT を活用して業務の省力化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端末更改の準備段階では、広く情報収集を行い、部内で役割と計画を話し合い精査しながら進めていくことができた。その結果、端末入れ替え作業が円滑に進み、計画より早く区切りをつけることができた。</li> <li>・新しい環境での ICT 機器の活用方法を、Teams 等で発信することで、同じ質問への対応に割く時間を減らすことができた。</li> </ul>
	<p>&lt;自立活動部&gt; 自立活動に有効な動画を発信し、業務の効率化を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動に有効な動画をまとめた「じかつチャンネル」も 2 年目となり、多くの職員に活用してもらうことができた。その他、研修で使用したパワーポイント資料や自立活動だよりなど、Teams のファイルに保存し、気軽に研修に取り組めるような環境づくりに取り組んできた。</li> <li>・Teams の発信のみに変更した自立活動だよりは、活用しにくくなったという反省も見られた。今後は、いつでも研修しやすいような環境づくりとともに、情報の発信を工夫していきたい。</li> </ul>
	<p>&lt;教育支援部&gt; 巡回相談等、各種記録の簡略化を行い、文書作成に要する時間の短縮を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談の記録用紙の様式を改め、当日記入したものをそのまま記録として残すことができるようとした。報告に必要なデータのみ入力する方法にすることで、職員の業務時間短縮につながった。来年も同様の方法で実施し、問題がなければこのまま継続していきたい。</li> </ul>
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害特性に応じ、教科のねらいを意識した授業づくりを行う。</li> <li>・お互いの人権を尊重しつつ、一人一人が自分事として考えた安全で安心な環境づくりと支援を行う。</li> <li>・会議や委員会の質を高め、無駄をなくし職員の働き方の改善につなげる。</li> </ul>